

### (3) 一次判定の変動

予防有用型として抽出された群における初回の一次判定結果は、要支援が 1,911 名 (29.0%)、要介護 1 が 2,860 名 (43.4%)、要介護 2 が 953 名 (14.4%)、要介護 3 が 422 名 (6.4%)、要介護 4 が 164 名 (2.5%)、要介護 5 が 95 名 (1.4%) であった。

2 回目は、要支援が 1,944 名 (29.5%)、要介護 1 が 3,198 名 (48.5%)、要介護 2 が 886 名 (13.4%)、要介護 3 が 290 名 (4.4%)、要介護 4 が 100 名 (1.5%)、要介護 5 が 22 名 (0.3%) であった。

3 回目は、要支援が 1,974 名 (28.4%)、要介護 1 が 3,277 名 (48.5%)、要介護 2 が 886 名 (13.4%)、要介護 3 が 308 名 (4.7%)、要介護 4 が 84 名 (1.3%)、要介護 5 が 30 名 (0.5%) であった。4 回目は要支援が 1,671 名 (25.3%)、要介護 1 が 3,600 名 (54.6%)、要介護 2 が 981 名 (14.9%)、要介護 3 が 224 名 (3.4%)、要介護 4 が 11 名 (0.2%) であった。

このように予防有用型の初回の一次判定は要支援、要介護 1 が多かったが、要介護 3 が 6.4%、要介護 4 が 2.5%、要介護 5 が 1.4%の合計 10.3%と概ね 1 割が含まれていた。2 回目にも、同様に要介護 3 が 4.4%、要介護 4 が 1.5%、要介護 5 が 0.3%含まれ、合計 6.2% あったが、その割合は初回よりも低下していた。3 回目は、要介護 3 が 308 名 (4.7%)、要介護 4 が 84 名 (1.3%)、要介護 5 が 30 名 (0.5%) で、これらの割合は、6.5%であった。4 回目には、要介護 3 が 224 名 (3.4%)、要介護 4 が 11 名 (0.2%) と示され、要介護 5 は消失し、合計でも 3.6%と低下していた。

### (4) 二次判定の変動

予防有用型に分類された集団における初回の要介護認定結果を分析した結果、要支援が 2,165 名 (32.8%)、要介護 1 が 2,784 名 (42.2%)、要介護 2 が 1,016 名 (15.4%)、要介護 3 が 418 名 (6.3%)、要介護 4 が 150 名 (2.3%)、要介護 5 が 53 名 (0.8%) であった。

2 回目は、要支援が 1,990 名 (30.2%)、要介護 1 が 3,071 名 (46.6%)、要介護 2 が 1,124 名 (17.0%)、要介護 3 が 319 名 (4.8%)、要介護 4 が 84 名 (1.3%)、要介護 5 が 7 名 (0.1%) であった。

3 回目は、要支援が 1,855 名 (28.1%)、要介護 1 が 3,094 名 (46.6%)、要介護 2 が 1,195 名 (18.1%)、要介護 3 が 378 名 (5.7%)、要介護 4 が 67 名 (1.0%)、要介護 5 が 5 名 (0.1%) であった。

4 回目は要支援が 1,508 名 (22.9%)、要介護 1 が 3,331 名 (50.5%)、要介護 2 が 1,515 名 (23.0%)、要介護 3 が 235 名 (3.6%)、要介護 4 が 5 名 (0.1%) であった。

このように予防有用型の初回の二次判定は、一次判定と同様に要支援、要介護 1 が多かったが、要介護 3 が 6.3%、要介護 4 が 2.3%、要介護 5 が 0.8%の合計 9.6%と概ね 1 割が含まれていた。2 回目にも、同様に要介護 3 が 4.8%、要介護 4 が 1.3%、要介護 5 が 0.1%

含まれ、合計 6.2%あったが、その割合は初回よりも低下していた。3回目は、要介護 3 が 308 名 (5.7%)、要介護 4 が 84 名 (1.0%)、要介護 5 が 30 名 (0.1%) で、これらの割合は、6.8%であった。4回目には、要介護 3 が 224 名 (3.6%)、要介護 4 が 11 名 (0.1%) と示され、要介護 5 は消失し、合計でも 3.7%と低下しており、この結果は一次判定と概ね一致していた。

したがって、初回認定の際に予防有用型と判定された高齢者群は、この他の要介護高齢者に比較すると要介護度が大きくの悪化する者は含まれていないことがわかった。

#### 4. 認定時点の予防有用型における『認知症高齢者の日常生活自立度』の変動

予防有用型の『認知症高齢者の日常生活自立度』をみると、初回では「正常」が4,005名(60.7%)、「I」が1,619名(24.5%)、「II a」が394名(6.0%)、「II b」が453名(6.9%)、「III a」が91名(1.4%)、「III b」が20名(0.3%)、「IV」が12名(0.2%)、「M」が3名(0.0%)であった。

2回目では、「正常」が3,816名(57.8%)、「I」が1,766名(26.8%)、「II a」が441名(6.7%)、「II b」が480名(7.3%)、「III a」が78名(1.2%)、「III b」が10名(0.2%)、「IV」が4名(0.1%)、「M」が2名(0.0%)であった。

3回目では、「正常」が3,615名(54.8%)、「I」が1,862名(28.2%)、「II a」が461名(7.0%)、「II b」が563名(8.5%)、「III a」が80名(1.2%)、「III b」が10名(0.2%)、「IV」が4名(0.1%)、「M」が2名(0.0%)であった。

4回目では、「正常」が3,473名(52.6%)、「I」が1,843名(27.9%)、「II a」が507名(7.7%)、「II b」が654名(9.9%)、「III a」が108名(1.6%)、「III b」が10名(0.2%)、「IV」が1名(0.0%)、「M」が1名(0.0%)であった。

『認知症高齢者の日常生活自立度』別に割合の変化をみると、「正常」「I」「II a」「II b」の割合は初回から4回目にかけて増加していたが、「III a」「III b」「IV」「M」の割合は初回から4回目にかけてその割合はあまり変化しないことがわかった。

表 178 『認知症高齢者の日常生活自立度』（予防有用型：N=6,597）

	初回			2回目			3回目			4回目		
	N	%	累積%	N	%	累積%	N	%	累積%	N	%	累積%
正常	4005	60.7	60.7	3816	57.8	57.8	3615	54.8	54.8	3473	52.6	52.6
I	1619	24.5	85.3	1766	26.8	84.6	1862	28.2	83.0	1843	27.9	80.6
II a	394	6.0	91.2	441	6.7	91.3	461	7.0	90.0	507	7.7	88.3
II b	453	6.9	98.1	480	7.3	98.6	563	8.5	98.5	654	9.9	98.2
III a	91	1.4	99.5	78	1.2	99.8	80	1.2	99.8	108	1.6	99.8
III b	20	0.3	99.8	10	0.2	99.9	10	0.2	99.9	10	0.2	100
IV	12	0.2	100	4	0.1	100	4	0.1	100	1	0.0	100
M	3	0.0	100	2	0.0	100	2	0.0	100	1	0.0	100
合計	6597	100		6597	100		6597	100		6597	100	

## 5. 認定時点の予防有用型における認知症の有症割合の要介護度別の変動

### (1) 初回の認知症の有症割合

次に、予防有用型において、要介護度別に認知症割合の経年的な変化についてみた。認知症を『認知症高齢者の日常生活自立度』がⅡ以上とし、その割合の変化についてみると、初回における要介護高齢者の認知症の有症割合は、14.7%であった。

要介護度別にみると、「要介護 5」が認知症の割合が最も多く 26 名 (49.1%)、次に「要介護 4」が 45 名 (30.0%)、「要介護 3」が 95 名 (22.7%)、「要介護 2」が 182 名 (17.9%)、「要介護 1」が 376 名 (13.5%)、「要支援」が 249 名 (11.5%)、「非該当」が 0 名 (0%) と続いた。要介護 5 では、ほぼ半数が認知症であった。

表 179 初回の要介護度別認知症割合 (予防有用型 : N=6,597)

	認知症なし		認知症		計	
	N	%	N	%	N	%
非該当	11	100	0	0	11	100
要支援	1916	88.5	249	11.5	2165	100
要介護 1	2408	86.5	376	13.5	2784	100
要介護 2	834	82.1	182	17.9	1016	100
要介護 3	323	77.3	95	22.7	418	100
要介護 4	105	70.0	45	30.0	150	100
要介護 5	27	50.9	26	49.1	53	100
合計	5624	85.3	973	14.7	6597	100

### (2) 2回目の認知症の有症割合の変動

2回目の要介護高齢者の認知症の有症割合は、15.4%で初回よりも増加していた。

要介護度別にみると、「要介護 4」が認知症の割合が最も多く 35 名 (23.3%)、次に「要介護 5」が 11 名 (20.8%)、「要介護 3」が 78 名 (18.7%)、「要介護 2」が 182 名 (17.9%)、「要介護 1」が 418 名 (15.0%)、「要支援」が 291 名 (13.4%)、「非該当」が 0 名 (0.0%) と続いた。

このうち、「要支援」、「要介護 1」に関しては、初回からと認知症の割合が増加していた。

しかし、要介護 3 は、22.7%から 18.7%、要介護 4 は、30.0%から 23.3%、要介護 5 は 49.1%から 20.8%と要介護 3 以上になると、認知症の有症割合は、低くなっていた。

表 180 2回目の要介護度別認知症割合（予防有用型：N=6,597）

	認知症なし		認知症		計	
	N	%	N	%	N	%
非該当	11	100	0	0.0	11	100
要支援	1874	86.6	291	13.4	2165	100
要介護1	2366	85.0	418	15.0	2784	100
要介護2	834	82.1	182	17.9	1016	100
要介護3	340	81.3	78	18.7	418	100
要介護4	115	76.7	35	23.3	150	100
要介護5	42	79.2	11	20.8	53	100
合計	5582	84.6	1015	15.4	6597	100

(3) 3回目の認知症の有症割合の変動

3回目の要介護高齢者の認知症の有症割合は、17.0%で初回よりも、2回目よりも増加していた。要介護度別にみると、「要介護5」が認知症の割合が最も多く15名（28.3%）、次に「要介護4」が33名（22.0%）、「要介護2」が196名（19.3%）、「要介護3」が75名（17.9%）、「要介護1」が458名（16.5%）、「要支援」が342名（15.8%）、「非該当」が1名（9.1%）と続いた。

このうち、有症割合が最も低かったのは、「非該当」で9.1%であった。要支援も2回目の13.41%から15.8%に増加し、要介護1も15.0%から16.5%と増加し、これも初回よりも2回目よりも高い割合であった。要介護2も17.9%から19.3%と増加していた。要介護3は、2回目の18.7%から17.9%、要介護4は、23.3%から22.0%と減少していたが、要介護5だけは、20.8%から28.3%と増加していた。

表 181 3回目の要介護度別認知症割合（予防有用型：N=6,597）

	認知症なし		認知症		計	
	N	%	N	%	N	%
非該当	10	90.9	1	9.1	11	100
要支援	1823	84.2	342	15.8	2165	100
要介護1	2326	83.5	458	16.5	2784	100
要介護2	820	80.7	196	19.3	1016	100
要介護3	343	82.1	75	17.9	418	100
要介護4	117	78.0	33	22.0	150	100
要介護5	38	71.7	15	28.3	53	100
合計	5477	83.0	1120	17.0	6597	100

(4) 4回目の認知症割合の変動

4回目の要介護高齢者の認知症の有症割合は、19.4%で初回よりも、2回目、3回目よりも増加していた。

要介護度別にみると、「要介護4」が認知症の割合が最も多く39名(26.0%)、次に「要介護5」が13名(24.5%)、「要介護2」が207名(20.4%)、「要介護1」が544名(19.5%)、「要支援」が400名(18.5%)、「要介護3」が77名(18.4%)、「非該当」が1名(9.1%)と続いた。

これらの結果から、「非該当」「要支援」「要介護1」「要介護2」については、初回から4回目まで認知症の割合が増加しているが、「要介護3」「要介護4」「要介護5」に関してはその傾向がみられなかった。

表 182 4回目の要介護度別認知症割合（予防有用型：N=6,597）

	認知症なし		認知症		計	
	N	%	N	%	N	%
非該当	10	90.9	1	9.1	11	100
要支援	1765	81.5	400	18.5	2165	100
要介護1	2240	80.5	544	19.5	2784	100
要介護2	809	79.6	207	20.4	1016	100
要介護3	341	81.6	77	18.4	418	100
要介護4	111	74.0	39	26.0	150	100
要介護5	40	75.5	13	24.5	53	100
合計	5316	80.6	1281	19.4	6597	100

## 第9章 予防有用型の状態像の特徴と経年的な変化

本章では、本研究において新たに開発した高齢者介護類型モデルを用いて、選定された介護予防有用型の経年的変化の特徴を全体の経年的変化と比較することによって明らかにすることを目的としている。

### 1.状態像の経年的な変化

#### (1) 麻痺（左上）

予防有用型では、麻痺（左上）について、初回は、「なし」が5,925名（89.8%）で、「あり」が672名（10.2%）であった。2回目は、「なし」が5,945名（90.1%）で、「あり」が652名（9.9%）であった。3回目は、「なし」が5,934名（89.9%）で、「あり」が663名（10.1%）であった。4回目は、「なし」が5,954名（90.3%）で、「あり」が643名（9.7%）であった。

全体の傾向と比較して、予防有用型群については「あり」の割合の変化が小さかった。

#### (2) 麻痺（右上）

予防有用型では、麻痺（右上）について、初回は、「なし」が5,892名（89.3%）で、「あり」が705名（10.7%）であった。2回目は、「なし」が5,898名（89.4%）で、「あり」が699名（10.6%）であった。3回目は、「なし」が5,913名（89.6%）で、「あり」が684名（10.4%）であった。4回目は、「なし」が5,922名（89.8%）で、「あり」が675名（10.2%）であった。

全体の傾向と比較して、予防有用型群は、「麻痺あり」の割合にあまり変化がなかった。

#### (3) 麻痺（左下）

予防有用型では、麻痺（左下）について、初回は、「なし」が3,438名（52.1%）で、「あり」が3,159名（47.9%）であった。2回目は、「なし」が3,143名（47.6%）で、「あり」が3,454名（52.4%）であった。3回目は、「なし」が2,832名（42.9%）で、「あり」が3,765名（57.1%）であった。4回目は、「なし」が2,514名（38.1%）で、「あり」が4,083名（61.9%）であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群においても、初回から4回目にかけて、「あり」の割合は増加していた。

#### (4) 麻痺（右下）

予防有用型では、麻痺（右下）について、初回は、「なし」が3,481名（52.8%）で、「あり」が3,116名（47.2%）であった。2回目は、「なし」が3,172名（48.1%）で、「あり」

が3,425名(51.9%)であった。3回目は、「なし」が2,879名(43.6%)で、「あり」が3,718名(56.4%)であった。4回目は、「なし」が2,559名(38.8%)で、「あり」が4,038名(61.2%)であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群においても、初回から4回目にかけて「あり」の割合は増加していた。

#### (5) 麻痺 (その他)

予防有用型では、麻痺(その他)について、初回は、「なし」が5,875名(89.1%)で、「あり」が722名(10.9%)であった。2回目は、「なし」が5,839名(88.5%)で、「あり」が758名(11.5%)であった。3回目は、「なし」が5,777名(87.6%)で、「あり」が820名(12.4%)であった。4回目は、「なし」が5,720名(86.7%)で、「あり」が877名(13.3%)であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても初回から4回目にかけて「あり」の割合が増加していた。

#### (6) 拘縮 (肩関節)

予防有用型では、拘縮(肩関節)について、初回は、「なし」が5,586名(84.7%)で、「あり」が1,011名(15.3%)であった。2回目は、「なし」が5,483名(83.1%)で、「あり」が1,114名(16.9%)であった。3回目は、「なし」が5,460名(82.8%)で、「あり」が1,137名(17.2%)であった。4回目は、「なし」が5,409名(82.0%)で、「あり」が1,188名(18.0%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても初回から4回目にかけて「拘縮(肩関節)あり」の割合が増加していた。

#### (7) 拘縮 (肘関節)

予防有用型では、拘縮(肘関節)について、初回は、「なし」が6,254名(94.8%)で、「あり」が343名(5.2%)であった。2回目は、「なし」が6,259名(94.9%)で、「あり」が338名(5.1%)であった。3回目は、「なし」が6,257名(94.8%)で、「あり」が340名(5.2%)であった。4回目は、「なし」が6,262名(94.9%)で、「あり」が335名(5.1%)であった。

全体の傾向と比較すると、予防有用型群においては、「拘縮(肘関節)あり」の割合には、ほとんど変化がなかった。

#### (8) 拘縮 (股関節)

予防有用型では、拘縮(股関節)は、初回は、「なし」が5,996名(90.9%)で、「あり」が601名(9.1%)であった。2回目は、「なし」が6,027名(91.4%)で、「あり」が570



名(8.6%)であった。3回目は、「なし」が6,022名(91.3%)で、「あり」が575名(8.7%)であった。4回目は、「なし」が6,022名(91.3%)で、「あり」が575名(8.7%)であった。

全体の傾向は、初回から4回目にかけて、「あり」が増加していたが、予防有用型群は、「拘縮(股関節)あり」の割合は、あまり変化しておらず、ありの割合は、初回に比較すると減少していた。

#### (9) 拘縮(膝関節)

予防有用型では、拘縮(膝関節)について、初回は、「なし」が4,205名(63.7%)で、「あり」が2,392名(36.3%)であった。2回目は、「なし」が4,065名(61.6%)で、「あり」が2,532名(38.4%)であった。3回目は、「なし」が4,082名(61.9%)で、「あり」が2,515名(38.1%)であった。4回目は、「なし」が4,054名(61.5%)で、「あり」が2,543名(38.5%)であった。

全体の漸次、増加する傾向に比較すると予防有用型群の「拘縮(膝関節)あり」の割合は、初回から2回目にかけては、全体と同様に増加するが、3回目は減少し、その後、再び増加するという変化を示していた。

#### (10) 拘縮(足関節)

予防有用型では、拘縮(足関節)について、初回は、「なし」が6,155名(93.3%)で、「あり」が442名(6.7%)であった。2回目は、「なし」が6,166名(93.5%)で、「あり」が431名(6.5%)であった。3回目は、「なし」が6,193名(93.9%)で、「あり」が404名(6.1%)であった。4回目は、「なし」が6,210名(94.1%)で、「あり」が387名(5.9%)であった。

全体的には、「拘縮(足関節)あり」の割合は初回から4回目にかけて増加するが、予防有用型群については初回から4回目にかけて減少していた。

#### (11) 拘縮(その他)

予防有用型では、拘縮(その他)について、初回は、「なし」が5,496名(83.3%)で、「あり」が1,101名(16.7%)であった。2回目は、「なし」が5,570名(84.4%)で、「あり」が1,027名(15.6%)であった。3回目は、「なし」が5,618名(85.2%)で、「あり」が979名(14.8%)であった。4回目は、「なし」が5,629名(85.3%)で、「あり」が968名(14.7%)であった。

全体としては、「拘縮(その他)あり」の割合は、初回から4回目にかけてあまり変化がないが、予防有用型群については、初回から4回目にかけて減少していた。

## (12) 寝返り

予防有用型では、寝返りは、初回は、「つかまらないでできる」が4,222名(64.0%)で、「何かにつかまればできる」が2,137名(32.4%)で、「できない」が238名(3.6%)であった。2回目は、「つかまらないでできる」が4,213名(63.9%)で、「何かにつかまればできる」が2,237名(33.9%)で、「できない」が147名(2.2%)であった。3回目は、「つかまらないでできる」が4,080名(61.8%)で、「何かにつかまればできる」が2,423名(36.7%)で、「できない」が94名(1.4%)であった。4回目は、「つかまらないでできる」が3,894名(59.0%)で、「何かにつかまればできる」が2,630名(39.9%)で、「できない」が73名(1.1%)であった。

全体の傾向と比較すると、予防有用型群は、「何かにつかまればできる」の割合は、全体の傾向と同様に認定回数が増えるにしたがって増加していたが、「できない」の割合は、初回から4回目めまで、漸次、減少していた。

## (13) 起き上がり

予防有用型では、起き上がりについては、初回は、「つかまらないでできる」が2,454名(37.2%)で、「何かにつかまればできる」が3,850名(58.4%)で、「できない」が293名(4.4%)であった。2回目は、「つかまらないでできる」が2,243名(34.0%)で、「何かにつかまればできる」が4,194名(63.6%)で、「できない」が160名(2.4%)であった。3回目は、「つかまらないでできる」が2,013名(30.5%)で、「何かにつかまればできる」が4,430名(67.2%)で、「できない」が154名(2.3%)であった。4回目は、「つかまらないでできる」が1,846名(28.0%)で、「何かにつかまればできる」が4,656名(70.6%)で、「できない」が95名(1.4%)であった。

全体の傾向と比較すると予防有用型群は、「できない」の割合が初回から、4回目まで、漸次、減少していることが特徴であった。

## (14) 両足での立位

予防有用型では、両足での立位は、初回は、「支えなしでできる」が4,030名(61.1%)で、「何か支えがあればできる」が2,289名(34.7%)で、「できない」が278名(4.2%)であった。2回目は、「支えなしでできる」が4,254名(64.5%)で、「何か支えがあればできる」が2,189名(33.2%)で、「できない」が154名(2.3%)であった。3回目は、「支えなしでできる」が4,145名(62.8%)で、「何か支えがあればできる」が2,297名(34.8%)で、「できない」が155名(2.3%)であった。4回目は、「支えなしでできる」が4,082名(61.9%)で、「何か支えがあればできる」が2,428名(36.8%)で、「できない」が87名(1.3%)であった。

全体の傾向と比較すると介護予防有用型では、「何か支えがあればできる」と「できない」の割合が、初回から2回目にかけて減少していた。また、2回目から4回目にかけて、全

体の傾向としては、「できない」割合が増加するが、予防有用型群については、「できない」の割合は、減少していた。

#### (15) 歩行

予防有用型では、歩行については、初回は、「つかまらないでできる」が2,162名(32.8%)で、「何かにつかまればできる」が3,876名(58.8%)で、「できない」が559名(8.5%)であった。2回目は、「つかまらないでできる」が2,212名(33.5%)で、「何かにつかまればできる」が4,011名(60.8%)で、「できない」が374名(5.7%)であった。3回目は、「つかまらないでできる」が2,086名(31.6%)で、「何かにつかまればできる」が4,098名(62.1%)で、「できない」が413名(6.3%)であった。4回目は、「つかまらないでできる」が1,913名(29.0%)で、「何かにつかまればできる」が4,294名(65.1%)で、「できない」が390名(5.9%)であった。

全体の傾向と比較して、全体では「何かにつかまればできる」と「できない」の割合が初回から4回目にかけて増加するが、予防有用型群は、「できない」の割合が初回から4回目にかけて減少していた。

#### (16) 移乗

予防有用型では、移乗については、初回は、「自立」が5,155名(78.1%)で、「見守り等」が896名(13.6%)で、「一部介助」が388名(5.9%)で、「全介助」が158名(2.4%)であった。2回目は、「自立」が5,464名(82.8%)で、「見守り等」が807名(12.2%)で、「一部介助」が274名(4.2%)で、「全介助」が52名(0.8%)であった。3回目は、「自立」が5,513名(83.6%)で、「見守り等」が778名(11.8%)で、「一部介助」が242名(3.7%)で、「全介助」が64名(1.0%)であった。4回目は、「自立」が5,651名(85.7%)で、「見守り等」が752名(11.4%)で、「一部介助」が182名(2.8%)で、「全介助」が12名(0.2%)であった。

全体の傾向としては、介助が必要な割合が2回目から4回目にかけて増加し、とくに「できない」割合が増加するが、予防有用型群については、「できない」の割合が初回から4回目まで、回数が増えるにしたがって減少していた。

#### (17) 立ち上がり

立ち上がりについては、初回は、「つかまらないでできる」が989名(15.0%)で、「何かにつかまればできる」が5,309名(80.5%)で、「できない」が299名(4.5%)であった。2回目は、「つかまらないでできる」が853名(12.9%)で、「何かにつかまればできる」が5,594名(84.8%)で、「できない」が150名(2.3%)であった。3回目は、「つかまらないでできる」が782名(11.9%)で、「何かにつかまればできる」が5,659名(85.8%)で、「できない」が156名(2.4%)であった。4回目は、「つかまらないでできる」が644名(9.8%)で、「何かにつかまればできる」が5,875名(89.1%)で、「で

きない」が78名(1.2%)であった。

全体の傾向との比較では、「できない」割合は、2回目から4回目にかけて増加するが、予防有用型群については、「できない」の割合は、初回から4回目にかけて、漸次、減少していた。

#### (18) 片足での立位

片足での立位については、初回は、「支えなしでできる」が922名(14.0%)で、「何か支えがあればできる」が4,217名(63.9%)で、「できない」が1,458名(22.1%)であった。2回目は、「支えなしでできる」が824名(12.5%)で、「何か支えがあればできる」が4,543名(68.9%)で、「できない」が1,230名(18.6%)であった。3回目は、「支えなしでできる」が743名(11.3%)で、「何か支えがあればできる」が4,692名(71.1%)で、「できない」が1,162名(17.6%)であった。4回目は、「支えなしでできる」が656名(9.9%)で、「何か支えがあればできる」が4,854名(73.6%)で、「できない」が1,087名(16.5%)であった。

全体の傾向との比較では、「できない」割合は、2回目から4回目にかけて増加するが、予防有用型群については、「できない」の割合は、初回から4回目にかけて、漸次、減少していた。

#### (19) 洗身

予防有用型では、洗身について、初回は、「自立」が3,681名(55.8%)で、「一部介助」が1,995名(30.2%)で、「全介助」が497名(7.5%)で、「行っていない」が424名(6.4%)であった。2回目は、「自立」が3,623名(54.9%)で、「一部介助」が2,373名(36.0%)で、「全介助」が451名(6.8%)で、「行っていない」が150名(2.3%)であった。3回目は、「自立」が3,383名(51.3%)で、「一部介助」が2,548名(38.6%)で、「全介助」が483名(7.3%)で、「行っていない」が183名(2.8%)であった。4回目は、「自立」が3,150名(47.7%)で、「一部介助」が2,813名(42.6%)で、「全介助」が495名(7.5%)で、「行っていない」が139名(2.1%)であった。

全体の傾向としては、全介助の割合は、初回から4回目まで漸次、増加していたが、予防有用型では、初回から2回目に、全介助が減少していた。また、予防有用型のほうが、自立の割合が高かった。

#### (20) じょくそう

予防有用型では、じょくそうについて、初回は、初回は、「ない」が6,477名(98.2%)で、「ある」が120名(1.8%)であった。2回目は、「ない」が6,522名(98.9%)で、「ある」が75名(1.1%)であった。3回目は、「ない」が6,515名(98.8%)で、「ある」が82名(1.2%)であった。4回目は、「ない」が6,510名(98.7%)で、「ある」が87

名（1.3％）であった。

全体の傾向と比較して、予防有用型群のほうが、じょくそうありの変動が少なかった。

#### (21) 皮膚疾患

予防有用型では、皮膚疾患については、初回は、「ない」が5,491名（83.2％）で、「ある」が1,106名（16.8％）であった。2回目は、「ない」が5,361名（81.3％）で、「ある」が1,236名（18.7％）であった。3回目は、「ない」が5,249名（79.6％）で、「ある」が1,348名（20.4％）であった。4回目は、「ない」が5,160名（78.2％）で、「ある」が1,437名（21.8％）であった。

予防有用型群も全体も同様の傾向を示しており、初回から4回目にかけて「あり」の割合が増加していた。

#### (22) えん下

予防有用型では、えん下については、初回は、「できる」が6,087名（92.3％）で、「見守り等」が507名（7.7％）で、「できない」が3名（0.0％）であった。2回目は、「できる」が6,097名（92.4％）で、「見守り等」が498名（7.5％）で、「できない」が2名（0.0％）であった。3回目は、「できる」が6,083名（92.2％）で、「見守り等」が512名（7.8％）で、「できない」が2名（0.0％）であった。4回目は、「できる」が6,050名（91.7％）で、「見守り等」が547名（8.3％）で、「できない」が0名（0.0％）であった。

全体の傾向では、「見守り等」「できない」が初回から4回目にかけて増加するが、予防有用型群の変化は、あまりみられなかった。

#### (23) 食事摂取

予防有用型では、食事摂取については、初回は、「自立」が6,064名（91.9％）で、「見守り等」が332名（5.0％）で、「一部介助」が173名（2.6％）で、「全介助」が28名（0.4％）であった。2回目は、「自立」が6,133名（93.0％）で、「見守り等」が311名（4.7％）で、「一部介助」が140名（2.1％）で、「全介助」が13名（0.2％）であった。3回目は、「自立」が6,110名（92.6％）で、「見守り等」が327名（5.0％）で、「一部介助」が150名（2.3％）で、「全介助」が10名（0.2％）であった。4回目は、「自立」が6,161名（93.4％）で、「見守り等」が306名（4.6％）で、「一部介助」が127名（1.9％）で、「全介助」が3名（0.0％）であった。

全体の傾向と比較して、全体的には、「見守り等」「一部介助」「全介助」という介助を必要とする者の割合が初回から4回目にかけて漸次、増加していたが、予防有用型群については、初回から4回目を比較すると減少していた。

#### (24) 口腔清潔

予防有用型では、口腔清潔については、初回は、「自立」が 5,613 名 (85.1 %) で、「一部介助」が 805 名 (12.2 %) で、「全介助」が 179 名 (2.7 %) であった。2 回目は、「自立」が 5,938 名 (90.0 %) で、「一部介助」が 575 名 (8.7 %) で、「全介助」が 84 名 (1.3 %) であった。3 回目は、「自立」が 5,894 名 (89.3 %) で、「一部介助」が 628 名 (9.5 %) で、「全介助」が 75 名 (1.1 %) であった。4 回目は、「自立」が 5,940 名 (90.0 %) で、「一部介助」が 614 名 (9.3 %) で、「全介助」が 43 名 (0.7 %) であった。

全体の傾向は、2 回目から 4 回目にかけて介助群が増加するが、予防有用型群については、「全介助」は、初回から 4 回目にかけて減少し、一部介助も、2 回目に大きく減少し、3 回目には増加するが、4 回目に再び減少していた。

#### (25) 洗顔

予防有用型では、洗顔については、初回は、「自立」が 5,630 名 (85.3 %) で、「一部介助」が 857 名 (13.0 %) で、「全介助」が 110 名 (1.7 %) であった。2 回目は、「自立」が 5,979 名 (90.6 %) で、「一部介助」が 577 名 (8.7 %) で、「全介助」が 41 名 (0.6 %) であった。3 回目は、「自立」が 5,939 名 (90.0 %) で、「一部介助」が 621 名 (9.4 %) で、「全介助」が 37 名 (0.6 %) であった。4 回目は、「自立」が 6,030 名 (91.4 %) で、「一部介助」が 550 名 (8.3 %) で、「全介助」が 17 名 (0.3 %) であった。

全体の傾向は、介助割合が 2 回目から 4 回目にかけて、漸次、増加していたが、予防有用型群は、介助割合は、初回から 2 回目に大きく減少し、3 回目にわずかに増加するが、4 回目に再び減少していた。全介助の割合は、初回から 4 回まで減少していた。

#### (26) 整髪

予防有用型では、整髪については、初回は、「自立」が 5,939 名 (90.0 %) で、「一部介助」が 500 名 (7.6 %) で、「全介助」が 158 名 (2.4 %) であった。2 回目は、「自立」が 6,150 名 (93.2 %) で、「一部介助」が 356 名 (5.4 %) で、「全介助」が 91 名 (1.4 %) であった。3 回目は、「自立」が 6,144 名 (93.1 %) で、「一部介助」が 357 名 (5.4 %) で、「全介助」が 96 名 (1.5 %) であった。4 回目は、「自立」が 6,280 名 (95.2 %) で、「一部介助」が 267 名 (4.0 %) で、「全介助」が 50 名 (0.8 %) であった。

全体の傾向とは、介助割合は初回から 4 回目にかけて増加していたが、予防有用型群については、介助割合が、初回から 4 回目にかけて、概ね減少していた。

#### (27) つめ切り

予防有用型では、つめ切りについては、初回は、「自立」が 3,454 名 (52.4 %) で、「一部介助」が 1,436 名 (21.8 %) で、「全介助」が 1,707 名 (25.9 %) であった。2 回目は、「自立」が 3,293 名 (49.9 %) で、「一部介助」が 1,433 名 (21.7 %) で、「全介助」が

1,871名(28.4%)であった。3回目は、「自立」が2,961名(44.9%)で、「一部介助」が1,468名(22.3%)で、「全介助」が2,168名(32.9%)であった。4回目は、「自立」が2,711名(41.1%)で、「一部介助」が1,516名(23.0%)で、「全介助」が2,370名(35.9%)であった。

全体の傾向と比較して、全体の傾向と同様に、予防有用型群についても初回から4回目にかけて「介助あり」の割合が増加していたが自立の割合は、全体よりもかなり高い割合であった。

#### (28) 上衣の着脱

予防有用型では、上衣の着脱については、初回は、「自立」が5,159名(78.2%)で、「見守り等」が336名(5.1%)で、「一部介助」が858名(13.0%)で、「全介助」が244名(3.7%)であった。2回目は、「自立」が5,361名(81.3%)で、「見守り等」が380名(5.8%)で、「一部介助」が738名(11.2%)で、「全介助」が118名(1.8%)であった。3回目は、「自立」が5,254名(79.6%)で、「見守り等」が407名(6.2%)で、「一部介助」が826名(12.5%)で、「全介助」が110名(1.7%)であった。4回目は、「自立」が5,275名(80.0%)で、「見守り等」が440名(6.7%)で、「一部介助」が823名(12.5%)で、「全介助」が59名(0.9%)であった。

全体の傾向としては、介助割合は初回から4回目にかけて増加していた。しかし、予防有用型群においては、介助群は、初回から2回目に減少し、3回目、4回目にわずかに増加しているが、大きな変動はなかった。

#### (29)ズボン等の着脱

予防有用型では、ズボン等の着脱は、初回は、「自立」が4,999名(75.8%)で、「見守り等」が336名(5.1%)で、「一部介助」が902名(13.7%)で、「全介助」が360名(5.5%)であった。2回目は、「自立」が5,230名(79.3%)で、「見守り等」が390名(5.9%)で、「一部介助」が787名(11.9%)で、「全介助」が190名(2.9%)であった。3回目は、「自立」が5,081名(77.0%)で、「見守り等」が433名(6.6%)で、「一部介助」が870名(13.2%)で、「全介助」が213名(3.2%)であった。4回目は、「自立」が5,095名(77.2%)で、「見守り等」が472名(7.2%)で、「一部介助」が929名(14.1%)で、「全介助」が101名(1.5%)であった。

全体の傾向としては、介助割合が初回から4回目にかけて増加しているが、予防有用型群は、初回から2回目に、介助割合が減少し、さらに3回目、4回目と増加はするものの、ほとんど変化していなかった。とくに全介助の割合は、2回目から4回目まで、漸次、減少していた。

### (30) 薬の内服

予防有用型では、薬の内服について、初回は、「自立」が4,175名(63.3%)で、「一部介助」が2,226名(33.7%)で、「全介助」が196名(3.0%)であった。2回目は、「自立」が4,244名(64.3%)で、「一部介助」が2,235名(33.9%)で、「全介助」が118名(1.8%)であった。3回目は、「自立」が4,018名(60.9%)で、「一部介助」が2,457名(37.2%)で、「全介助」が122名(1.8%)であった。4回目は、「自立」が3,874名(58.7%)で、「一部介助」が2,618名(39.7%)で、「全介助」が105名(1.6%)であった。

全体の傾向としては、介助割合は初回から4回目にかけて増加していたが、予防有用型群は、初回から2回目にかけて介助割合は減少していた。2回目から4回目にかけても全介助の割合は減少し、介助割合の増加は、全体と比較すると少なかった。

### (31) 金銭の管理

予防有用型では、金銭の管理について、初回は、「自立」が3,685名(55.9%)で、「一部介助」が1,851名(28.1%)で、「全介助」が1,061名(16.1%)であった。2回目は、「自立」が3,500名(53.1%)で、「一部介助」が1,980名(30.0%)で、「全介助」が1,117名(16.9%)であった。3回目は、「自立」が3,422名(51.9%)で、「一部介助」が1,973名(29.9%)で、「全介助」が1,202名(18.2%)であった。4回目は、「自立」が3,370名(51.1%)で、「一部介助」が1,954名(29.6%)で、「全介助」が1,273名(19.3%)であった。

全体の傾向と比較して、予防有用型群についても初回から4回目にかけて、介助割合は増加するが、その増加割合は、予防有用型においては、少なかった。

### (32) 視力

予防有用型では、視力は、初回は、「普通」が5,160名(78.2%)で、「1m離れて見える」が1,076名(16.3%)で、「目の前で見える」が267名(4.0%)で、「ほとんど見えない」が92名(1.4%)で、「判断不能」が2名(0.0%)であった。2回目は、「普通」が5,111名(77.5%)で、「1m離れて見える」が1,112名(16.9%)で、「目の前で見える」が277名(4.2%)で、「ほとんど見えない」が97名(1.5%)で、「判断不能」が0名(0.0%)であった。3回目は、「普通」が5,080名(77.0%)で、「1m離れて見える」が1,170名(17.7%)で、「目の前で見える」が255名(3.9%)で、「ほとんど見えない」が91名(1.4%)で、「判断不能」が1名(0.0%)であった。4回目は、「普通」が5,026名(76.2%)で、「1m離れて見える」が1,200名(18.2%)で、「目の前で見える」が276名(4.2%)で、「ほとんど見えない」が93名(1.4%)で、「判断不能」が2名(0.0%)であった。

全体と同様に予防有用型群についても初回から4回目にかけて「普通」の割合が減少し



ていたが、予防有用型のほうが「普通に見える」割合は高かった。

### (33) 聴力

予防有用型では、聴力は、初回は、「普通」が 4,211 名 (63.8 %) で、「やっと聞き取れる」が 1,595 名 (24.2 %) で、「大きな声聞き取れる」が 749 名 (11.4 %) で、「ほとんど聴こえない」が 40 名 (0.6 %) で、「判断不能」が 2 名 (0.0 %) であった。2 回目は、「普通」が 4,109 名 (62.3 %) で、「やっと聞き取れる」が 1,631 名 (24.7 %) で、「大きな声聞き取れる」が 822 名 (12.5 %) で、「ほとんど聴こえない」が 34 名 (0.5 %) で、「判断不能」が 1 名 (0.0 %) であった。3 回目は、「普通」が 3,974 名 (60.2 %) で、「やっと聞き取れる」が 1,735 名 (26.3 %) で、「大きな声聞き取れる」が 847 名 (12.8 %) で、「ほとんど聴こえない」が 41 名 (0.6 %) で、「判断不能」が 0 名 (0.0 %) であった。4 回目は、「普通」が 3,883 名 (58.9 %) で、「やっと聞き取れる」が 1,761 名 (26.7 %) で、「大きな声聞き取れる」が 914 名 (13.9 %) で、「ほとんど聴こえない」が 38 名 (0.6 %) で、「判断不能」が 1 名 (0.0 %) であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても初回から 4 回目にかけて「普通」の割合は、減少するが、全体よりは、普通に聞き取れる割合が高かった。

### (34) 意思の伝達

予防有用型では、意思の伝達については、初回は、「伝達できる」が 6,248 名 (94.7 %) で、「ときどき伝達できる」が 320 名 (4.9 %) で、「ほとんど伝達できない」が 24 名 (0.4 %) で、「できない」が 5 名 (0.1 %) であった。2 回目は、「伝達できる」が 6,283 名 (95.2 %) で、「ときどき伝達できる」が 294 名 (4.5 %) で、「ほとんど伝達できない」が 18 名 (0.3 %) で、「できない」が 2 名 (0.0 %) であった。3 回目は、「伝達できる」が 6,278 名 (95.2 %) で、「ときどき伝達できる」が 296 名 (4.5 %) で、「ほとんど伝達できない」が 20 名 (0.3 %) で、「できない」が 3 名 (0.0 %) であった。4 回目は、「伝達できる」が 6,261 名 (94.9 %) で、「ときどき伝達できる」が 317 名 (4.8 %) で、「ほとんど伝達できない」が 17 名 (0.3 %) で、「できない」が 2 名 (0.0 %) であった。

全体の傾向としては、認定回数が増えるにしたがって、伝達できない割合が増加していくが、予防有用型群では、伝達できない割合は、初回 5.3%、2 回目 4.7%、3 回目 4.8%、4 回目 5.1%とあまり変化していなかった。全体と比較すると介助割合は、かなり低かった。

### (35) 指示への反応

予防有用型では、指示への反応については、初回は、「通じる」が 6,288 名 (95.3 %) で、「ときどき通じる」が 306 名 (4.6 %) で、「通じない」が 3 名 (0.0 %) であった。2 回目は、「通じる」が 6,279 名 (95.2 %) で、「ときどき通じる」が 315 名 (4.8 %) で、「通じない」が 3 名 (0.0 %) であった。3 回目は、「通じる」が 6,258 名 (94.9 %) で、「と

きどき通じる」が 338 名 (5.1 %) で、「通じない」が 1 名 (0.0 %) であった。4 回目は、「通じる」が 6,246 名 (94.7 %) で、「ときどき通じる」が 350 名 (5.3 %) で、「通じない」が 1 名 (0.0 %) であった。

全体の傾向としては、指示が通じる割合が、初回から 4 回と徐々に減少していたが、予防有用型群においては、減少してはいるものの、その変化は、初回が 95.3%、2 回目が 95.2%、3 回目が 94.9%、4 回目が 94.7% とほとんどなかった。通じないものは初回から 4 回目まで 0 だった。

#### (36) 毎日の日課を理解

予防有用型では、毎日の日課を理解については、初回は、「できる」が 6,171 名 (93.5 %) で、「できない」が 426 名 (6.5 %) であった。2 回目は、「できる」が 6,110 名 (92.6 %) で、「できない」が 487 名 (7.4 %) であった。3 回目は、「できる」が 6,031 名 (91.4 %) で、「できない」が 566 名 (8.6 %) であった。4 回目は、「できる」が 5,958 名 (90.3%) で、「できない」が 639 名 (9.7 %) であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても初回から 4 回目にかけて「できない」の割合が増加していたが、その割合は、かなり低かった。

#### (37) 生年月日をいう

予防有用型では、生年月日をいうについては、初回は、「できる」が 6,480 名 (98.2 %) で、「できない」が 117 名 (1.8 %) であった。2 回目は、「できる」が 6,477 名 (98.2 %) で、「できない」が 120 名 (1.8 %) であった。3 回目は、「できる」が 6,473 名 (98.1 %) で、「できない」が 124 名 (1.9 %) であった。4 回目は、「できる」が 6,460 名 (97.9 %) で、「できない」が 137 名 (2.1 %) であった。

全体の傾向と比較して、全体については初回から 4 回目にかけて「できない」の割合が増加するが、予防有用型群についてはあまり変化しなかった。

#### (38) 短期記憶

予防有用型では、短期記憶については、初回は、「できる」が 6,122 名 (92.8 %) で、「できない」が 475 名 (7.2 %) であった。2 回目は、「できる」が 6,105 名 (92.5 %) で、「できない」が 492 名 (7.5 %) であった。3 回目は、「できる」が 6,030 名 (91.4 %) で、「できない」が 567 名 (8.6 %) であった。4 回目は、「できる」が 5,975 名 (90.6 %) で、「できない」が 622 名 (9.4 %) であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても初回から 4 回目にかけて「できない」の割合が増加していたが、その割合は、かなり低く、全体の 3 割程度であった。

#### (39) 自分の名前をいう

予防有用型では、自分の名前をいうについて、初回は、「できる」が6,590名(99.9%)で、「できない」が7名(0.1%)であった。2回目は、「できる」が6,593名(99.9%)で、「できない」が4名(0.1%)であった。3回目は、「できる」が6,590名(99.9%)で、「できない」が7名(0.1%)であった。4回目は、「できる」が6,590名(99.9%)で、「できない」が7名(0.1%)であった。

全体の傾向と比較して、全体については初回から4回目にかけて「できない」の割合が増加するが、予防有用型群については全く変化しておらず、99.9%が名前をいうことができた。

#### (40) 今の季節を理解

予防有用型では、今の季節を理解については、初回は、「できる」が6,319名(95.8%)で、「できない」が278名(4.2%)であった。2回目は、「できる」が6,300名(95.5%)で、「できない」が297名(4.5%)であった。3回目は、「できる」が6,270名(95.0%)で、「できない」が327名(5.0%)であった。4回目は、「できる」が6,189名(93.8%)で、「できない」が408名(6.2%)であった。

全体の傾向と比較して、予防有用型群についても初回から4回目にかけて「できない」の割合が増加していたが、全体の「できない」割合の1/4程度となっており、「できる」の割合は、平均すると95%と示され、かなり高い値であった。

#### (41) 場所の理解

予防有用型では、場所の理解については、初回は、「できる」が6,479名(98.2%)で、「できない」が118名(1.8%)であった。2回目は、「できる」が6,499名(98.5%)で、「できない」が98名(1.5%)であった。3回目は、「できる」が6,491名(98.4%)で、「できない」が106名(1.6%)であった。4回目は、「できる」が6,475名(98.2%)で、「できない」が122名(1.8%)であった。

全体の傾向と比較して、全体については初回から4回目にかけて「できない」の割合が増加するが、予防有用型群は、ほとんど変化しておらず、98%以上が初回から、4回目まですべて「できる」であった。

#### (42) 物を盗られたなどと被害的になることが(被害的)

予防有用型では、物を盗られたなどと被害的になることについては、初回は、「ない」が6,318名(95.8%)で、「ときどきある」が128名(1.9%)で、「ある」が151名(2.3%)であった。2回目は、「ない」が6,341名(96.1%)で、「ときどきある」が150名(2.3%)で、「ある」が106名(1.6%)であった。3回目は、「ない」が6,334名(96.0%)で、「ときどきある」が144名(2.2%)で、「ある」が119名(1.8%)であった。4回目は、

「ない」が6,313名(95.7%)で、「ときどきある」が159名(2.4%)で、「ある」が125名(1.9%)であった。

全体も予防有用型群も初回から2回目に、「ときどきある」「ある」の割合が減少していた。2回目から4回目は、ほとんど変化していなかった。介護予防有用型においては、95%以上に、この問題行動はなかった。

(43) 作話をし周囲に言いふらすことが(作話)

予防有用型では、作話をし周囲に言いふらすことについて、初回は、「ない」が6,462名(98.0%)で、「ときどきある」が72名(1.1%)で、「ある」が63名(1.0%)であった。2回目は、「ない」が6,476名(98.2%)で、「ときどきある」が75名(1.1%)で、「ある」が46名(0.7%)であった。3回目は、「ない」が6,481名(98.2%)で、「ときどきある」が64名(1.0%)で、「ある」が52名(0.8%)であった。4回目は、「ない」が6,476名(98.2%)で、「ときどきある」が72名(1.1%)で、「ある」が49名(0.7%)であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群は、初回から4回目まで、98%以上が「ない」と回答し、回数ごとの変化も2回目から4回目には全くなかった。

(44) 実際にはないものが見えたり、聞こえることが(幻視幻聴)

予防有用型では、実際にはないものが見えたり、聞こえることについて、初回は、「ない」が6,361名(96.4%)で、「ときどきある」が142名(2.2%)で、「ある」が94名(1.4%)であった。2回目は、「ない」が6,443名(97.7%)で、「ときどきある」が93名(1.4%)で、「ある」が61名(0.9%)であった。3回目は、「ない」が6,427名(97.4%)で、「ときどきある」が100名(1.5%)で、「ある」が70名(1.1%)であった。4回目は、「ない」が6,437名(97.6%)で、「ときどきある」が102名(1.5%)で、「ある」が58名(0.9%)であった。

予防有用型群は全体よりも「ない」の割合が高く、初回から4回目まで、96%以上に「ない」と示されていた。初回から4回目までの変化については、全体と同様に、ほとんどなかった。

(45) 泣いたり、笑ったりして感情が不安定になることが(感情が不安定)

予防有用型では、泣いたり、笑ったりして感情が不安定になることについては、初回は、「ない」が6,136名(93.0%)で、「ときどきある」が260名(3.9%)で、「ある」が201名(3.0%)であった。2回目は、「ない」が6,154名(93.3%)で、「ときどきある」が253名(3.8%)で、「ある」が190名(2.9%)であった。3回目は、「ない」が6,163名(93.4%)で、「ときどきある」が235名(3.6%)で、「ある」が199名(3.0%)であった。4回目は、「ない」が6,167名(93.5%)で、「ときどきある」が237名(3.6%)で、「ある」が193名(2.9%)であった。